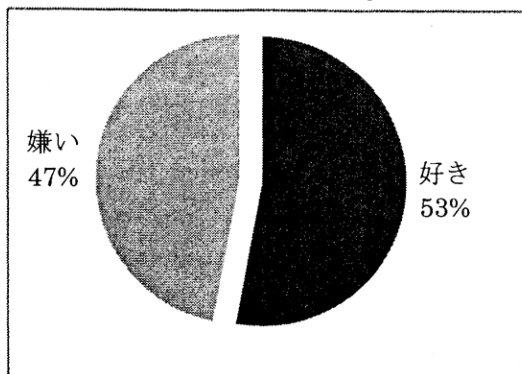


英語に関するアンケート調査結果から

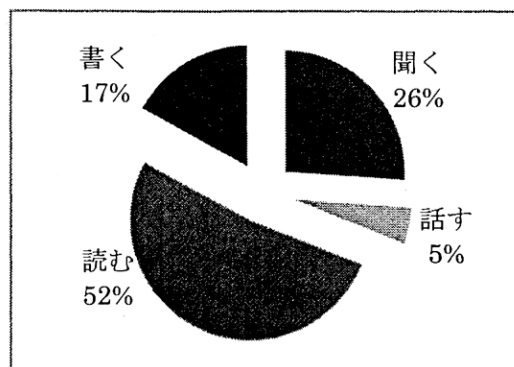
まず最初に、生徒の英語への関心・意欲や、実態を知るために、研究協力委員が勤務する3校で、約500人の生徒を対象に、同じ調査項目で意識調査を行った。

(1) アンケート結果の分析

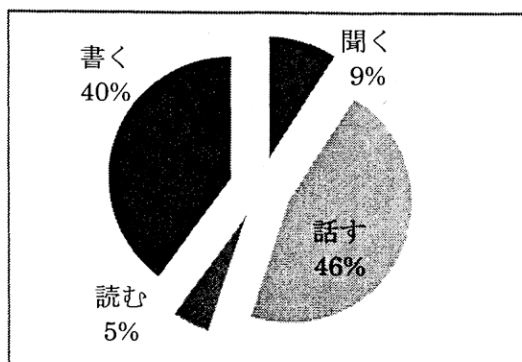
1 あなたは英語が好きですか。



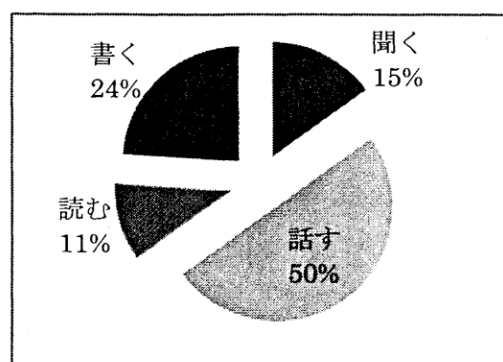
2 「聞く」「話す」「読む」「書く」の中で得意なことは何ですか。



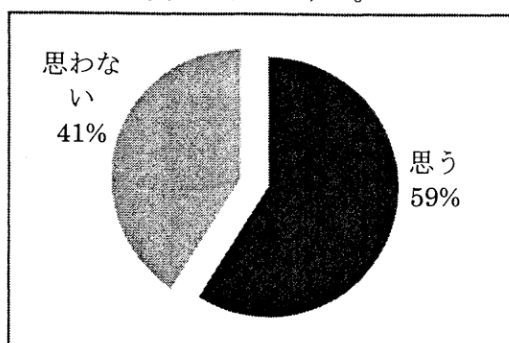
3 「聞く」「話す」「読む」「書く」の中で苦手なことは何ですか。



4 「聞く」「話す」「読む」「書く」の中で力をつけたいことは何ですか。



5 英語は必要だと思いますか。



6 英語でどのようなことができるようになりたいですか。(多かった回答を抜粋)

- ・外国の人と話がしたい。交流したい。
- ・映画のように、英語のセリフを言ってみたい。
- ・英語の歌を歌いたい。
- ・洋画、洋楽を理解したい。
- ・洋書や英語の新聞を読んでみたい。インターネットの英語のサイトを理解したい。
- ・海外旅行に行って、その国の人と英語で話したい。
- ・困っている外国の人を助けてあげたい。
- ・英語を活かせる仕事に就きたい。

＜アンケートの結果の考察＞

- ① 得意と感ずることでは「読む」ことが一番多い。日常の指導で、音読や日本語訳などの本文の読解を中心とした「読む」活動が多いためと考えられる。
- ② 得意なことでも最も少ない項目は「話す」ことである。また、苦手なことでも最も多いのも「話す」ことであった。これは、日常の指導で「話す」活動を取り入れる機会が少ないため、話すことへの抵抗感が大きいためではないかと考えられる。
- ③ 「力をつけたいこと」では、「話す」ことが半数を占めた。苦手と感ずているが、英語を話せるようになりたいと思っている生徒が多いことが分かる。
- ④ 英語でできるようになりたいことでは、「外国の人と話がしたい」が最も多く、この回答でも「話したい」という生徒の希望が表れた。

これらの結果は、ある特定の学校だけではなく、調査対象とした3校に共通したものであった。アンケートからは、多くの生徒が「英語を話したい」という思いをもっていることが分かる。

(2) アンケートの結果を踏まえて

コミュニケーション能力を伸長させるには、学んだ表現を用いて、伝達を目的として英語を話したり、それを聞いたりさせることが不可欠である。しかし、アンケートで明らかになったように、多くの生徒が英語を話せるようになりたいという希望をもっているものの、「話す」ことに対しては苦手意識を感ずている。そこで、特に、「情報などの伝達を目的とした英語を発話する活動」を授業に効果的に取り入れる方法について考えた。あくまでも英語の指導であることを鑑み、ただ「話す」だけではなく、生徒が「英語を話す必要性を感ず、意味のある内容を伝えるために話す」活動を行うことを重視した実践研究を行うこととした。